調　査　速　報

道総研

道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2021年12月15日

北海道立総合研究機構　函館水産試験場（0138-83-2893）

〇2021年12月7日～11日に，調査船金星丸を用いてスケトウダラを対象にした計量魚探調査，トロール調査，CTDによる環境調査を実施したので，結果をお知らせします（図1）。調査速報は下記の函館水試ホームページからもご覧になれます。
http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/

- スケトウダラ魚群は主に奥尻海峡から相沼沖にかけて分布していた。
- 魚群は概ね水深 300～500m に分布し，分布の中心は前年と同様に水深 400m 前後に見られた。
- 魚探反応量は前年の 1.1 倍で，引き続き低水準。
- 魚体の大きさは，尾叉長 39～48cm の成魚が主体で，前年よりも大型。
- スケトウダラが分布していた水深 300～500m の水温は 1.5℃以下で，各調査点とも平年並みであった。

● スケトウダラ魚群の分布状況

・水平分布

スケトウダラ魚群の多くは，前年と同様に奥尻海峡（奥尻島の東側）から相沼沖にかけて分布していました（図2）。一方，乙部以南の海域ではほとんど分布が見られませんでした（図2，3）。

・鉛直分布

スケトウダラ魚群は概ね水深300～500mに分布していました（図3）。分布の中心は，前年と同様に水深400m前後に見られました。

● スケトウダラ延縄漁場周辺の魚探反応量の経年変化

スケトウダラ延縄漁場とその周辺（図１の赤破線枠内）のスケトウダラ魚探反応量は前年の1.1倍で，引き続き低水準で推移しています（図4）。

● 着底トロールで漁獲したスケトウダラの大きさ

着底トロール調査では，主に尾叉長39～48cmの成魚が採集されました（図5）。

前年の同調査では尾叉長40cm前後が主体でしたが，今年は45cm以上の個体もまとまって採集されました。

● スケトウダラ延縄漁場域の水温環境

スケトウダラが分布していた水深300～500mの水温は1.5℃以下で，各調査点とも平年並みでした（図6）。一方，乙部の200m以浅，江差の100m以浅，上ノ国南沖の150m以浅の水温は平年よりも約2～3℃高くなっていました。

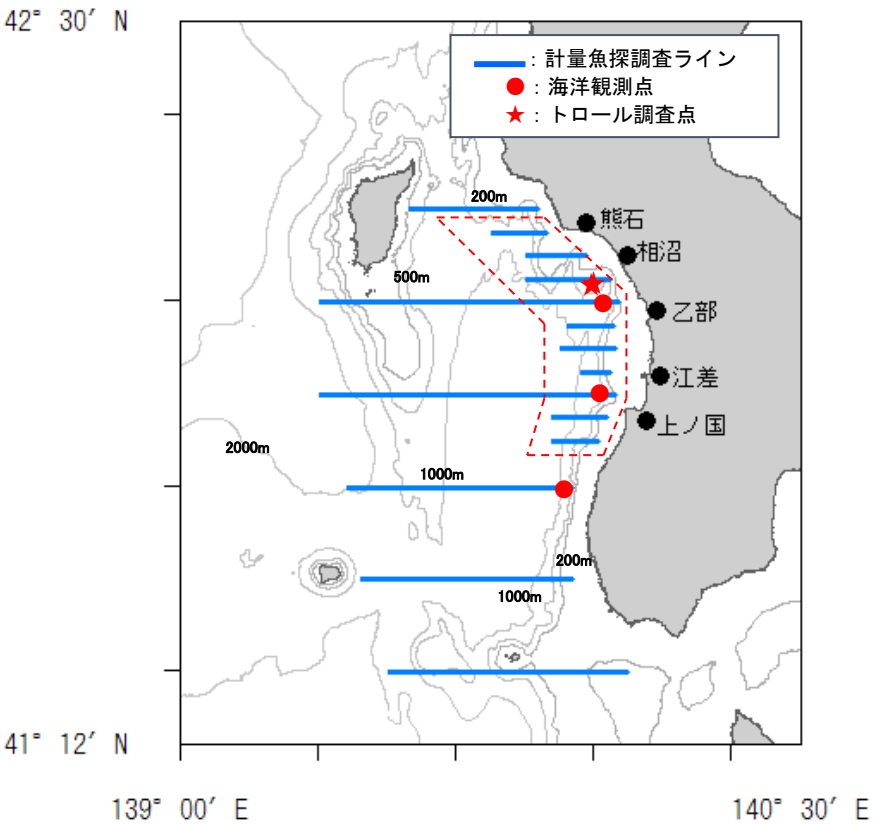


図１　調査海域図
※赤破線は図４の魚群反応量を算出した範囲

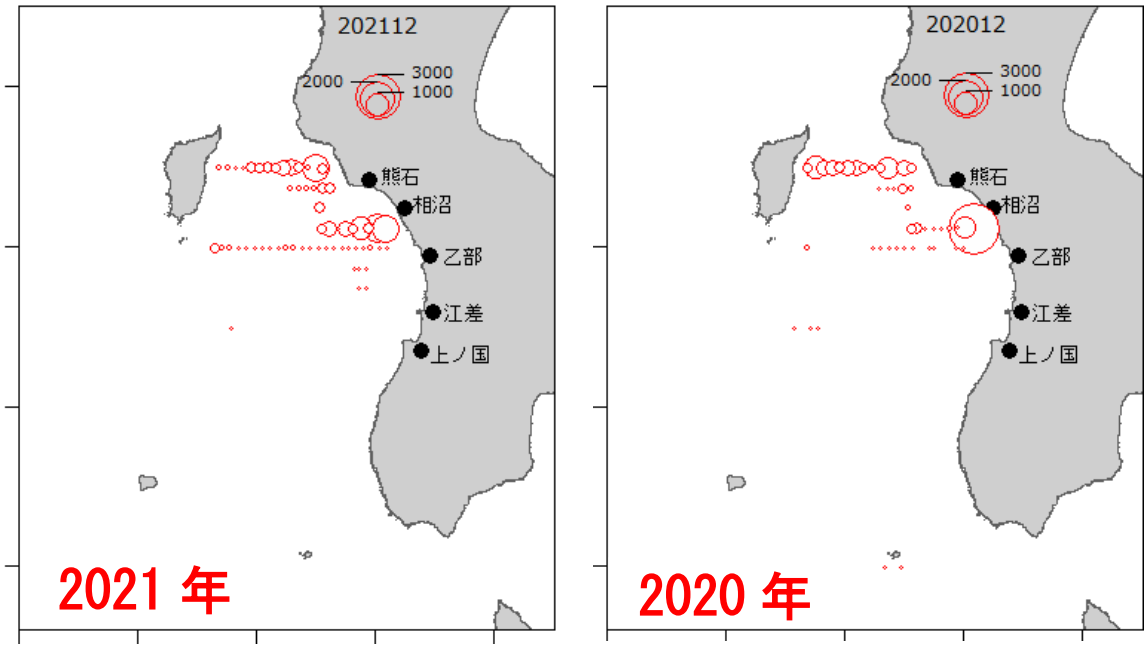
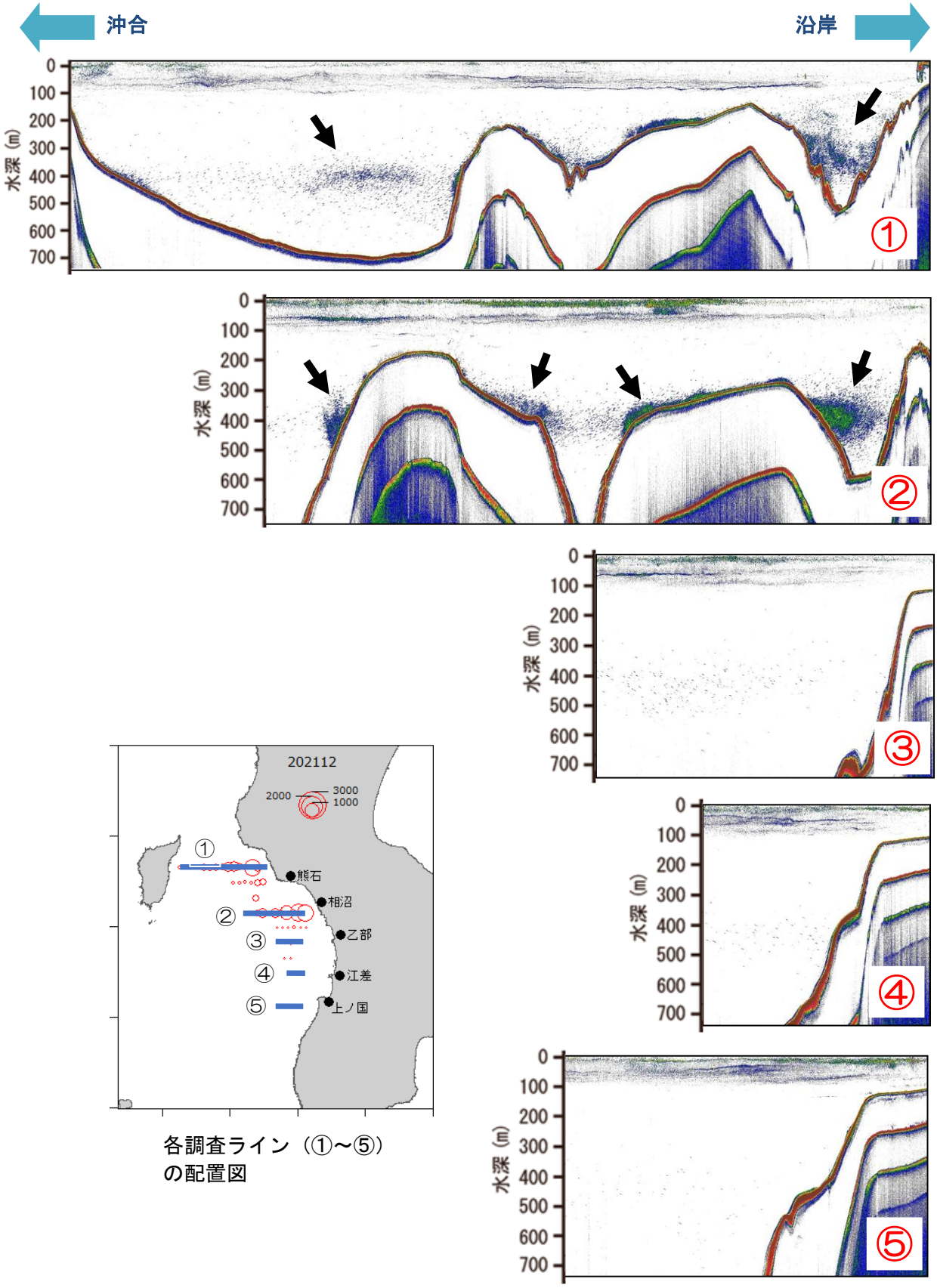


図２　計量魚探調査による魚群反応量(NASC(m^2/nmi^2))の水平分布
※魚群反応量(NASC)：１マイル平方面積あたりの魚探反応の強さを表す。
○の大きさが魚群反応量の強さを示す



各調査ライン（①～⑤）
の配置図

図３　スケトウダラの魚探反応図（2021 年 12 月）
（全て夜間に調査を実施）
※矢印 ↘ はスケトウダラと考えられる反応

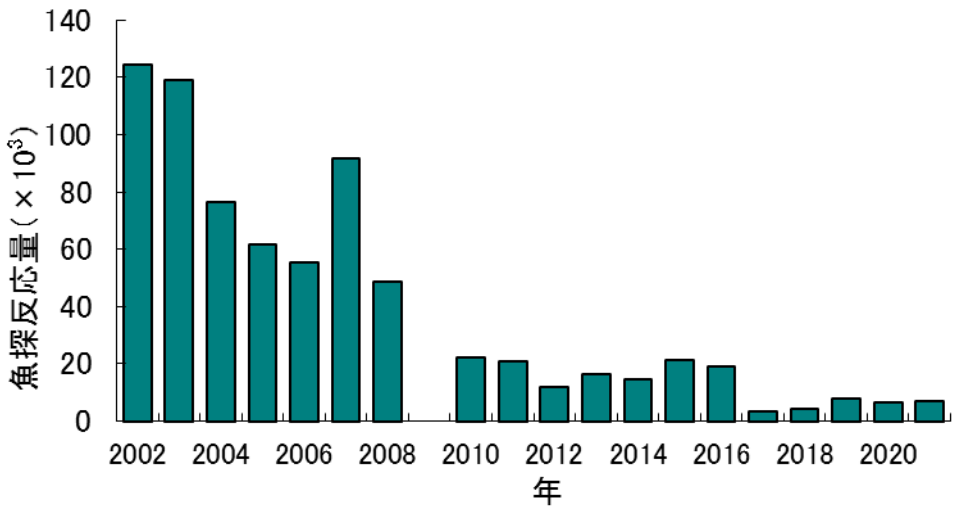


図４　スケトウダラ延縄漁場とその周辺における魚群反応量の経年変化
※2009 年は荒天で調査できず

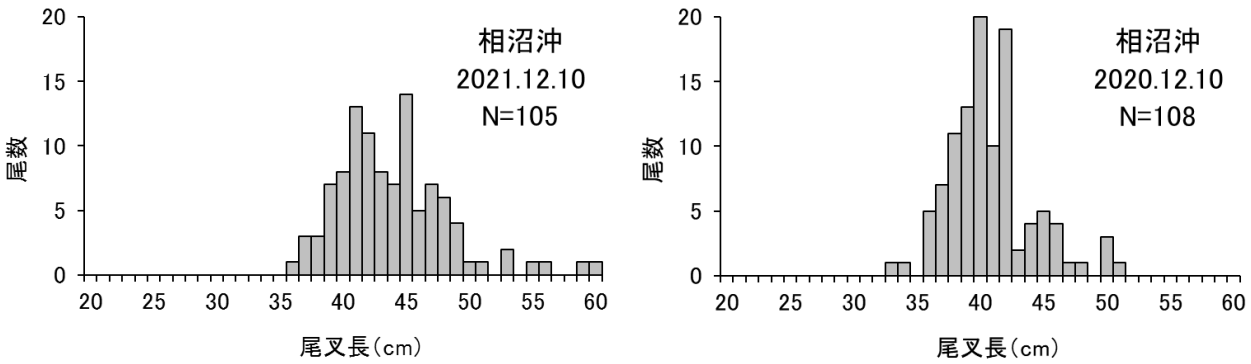


図５　着底トロールで漁獲したスケトウダラの尾叉長組成
（左：2021 年，右：2020 年）

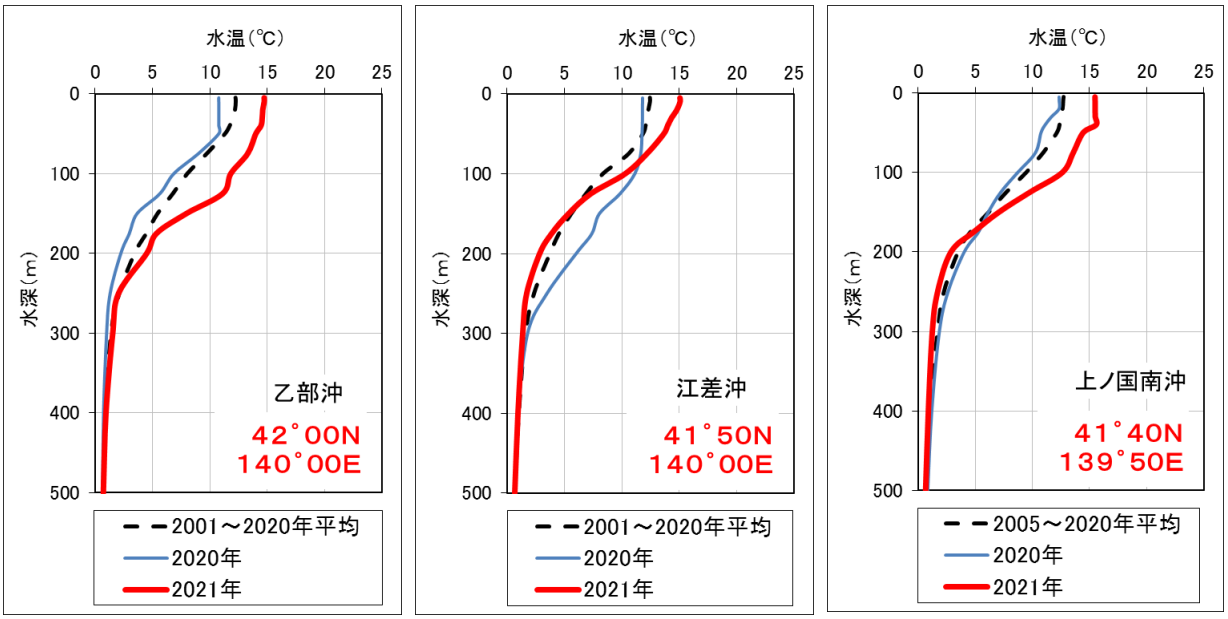


図６　乙部沖（左），江差沖（中），上ノ国南沖（右）の鉛直水温分布（2021 年 12 月）